

事業実施報告

開催日	令和5年9月16日（土）～9月17日（日）	開催時間	9月16日（土）10:00～9月17日（日）13:30
事業名	テンパーク冒険子ども食堂		
開催場所	国立岩手山青少年交流の家	参加人数	20人
参加学校名等	連携機関から推薦された子ども食堂を利用している小学4年生～中学生		
関係機関名	認定特定非営利活動法人インクルいわて 特定非営利活動法人いなほ		

状況報告 (事業の内容・事業の成果と課題について記載)

〔事業の内容〕

獲って、作って、いわての秋を食べ尽くそう！をテーマに1泊2日の中で、炭水化物の摂り方を学び、調理実習する食育プログラムを企画した。栄養士からの講話と指導を受けて焼き芋・きりたんぼ鍋を共同で調理した。また、釣った魚を自ら捌く体験を通して、命をいただいていることを実感をもって学んだ。また、家に帰ってから再現できる調理として、簡単おにぎりづくりを実施した。

冒険要素として、テント泊を設定し、各自創作したLEDジェルランプを灯して夜を過ごした。さらに、夜の活動として星空観察を講師指導のもとで実施し、初めての体験に子どもたちは感動を味わうことができた。

〔成果〕

- ・対象年齢を絞ったことでレベルを合せやすく、冒険要素も増やすことができた。初のテント泊にも挑戦することができた。

- ・子ども食堂を運営する2つ法人の協力を得て、周知と募集を担って頂き、支援を必要とする家庭に周知することができた。また、連携施設職員に帯同していただいたことで、当施設を初めて利用する参加者が、安心して参加することができた。連携施設職員もテント泊・調理などに加わり、子どもたちの成長を見取ることができた。

- ・前年度アンケートと企画評価委員会の意見を取り入れた6つの活動のすべてが「満足」「やや満足」の肯定的評価100%となった。特に釣り・魚捌き体験については、「満足」100%と高い評価となった。命をいただく実感を持った子たちは、真剣に実習に臨むことができた。

- ・企画評価委員会で提案いただいた「自分一人でも作れるメニュー」として、「簡単おにぎりづくり」を取り入れた。子どもたちから「これから活かしてみたいこと」の中に「すぐ家でもつくれる」「これから料理に活かしたい」と自信につながったことがわかった。

〔課題〕

- ・実施時期を10月から9月に変更したが、直前まで熱中症の発生が続いた状況で、急遽経口補水液、塩分タブレット、ミストの設置、テント内扇風機など複数の熱中症対策を準備して実施した。クーラーのない施設の環境を考慮すると、元の10月に変更することの検討と併せて、熱中症対策を強化・確立する必要がある。

- ・直前に熊出没の情報が続き、2日目の朝警備員が熊と遭遇した。緊急で宿直に追加の熊払いを実施してもらい、安全を確認して野外活動を開始した。天候の都合で館内テント泊に切り替えていたため、計画変更は最小限にとどめることができた。しかし、屋外テント泊への希望は多く、施設として獣対策・出没時の避難誘導など対応を準備していく必要がある。

- ・連携団体に3年連続で協力をいただき、企画評価委員会の委員として助言をいただきながら事業を遂行してきた。子ども食堂を開催する個人や有志団体は県内にも複数あるが、企画・運営に参画いただける規模の団体は決して多くない現状である。連携先の負担にならない協力の在り方を検討する必要がある。

状況写真



「LEDジェルランタンづくり」



「テントでジェルランタンを灯して」



「きりたんぼを作ろう」



「養魚場で釣り体験」



「簡単おにぎりづくり」



「みんなで作って食べ尽くそ」